医療分野 さらに強化

長野テクトロン 埼玉の企業 子会社化

電子機器向け入力装置など製造の長野テクトロン（長野市）の持ち株会社長野テクトロングループ（同）は12日、操作パネルユニット開発・製造のジェイエムティー（埼玉県川口市）の全株式を取得し、子会社化したと明らかにした。新製品開発や医療分野の強化につなげる。

ジェイエムティーは、1988（昭和63）年設立。超音波診断装置やMRI（磁気共鳴画像装置）の操作パネルなどの開発・製造を手がける。医療機器メーカー向けに販売し、2024年6月期の売上高は約14億円。業容拡大を図る一方、創業者が高齢になり譲渡先を探していた。

ジェイエムティーが手がける医療用の操作パネル

長野テクトロングループは9月30日付でジェイエムティーの全株式を取得。社員全32人の雇用は継続し、社長は同グループの柳沢由英社長が兼務する。グループ傘下の企業は計7社となり、20年以降、強化を図っている医療分野は計3社となった。

グループの中核を担う長野テクトロンは、薄いシート状の「メンブレンスイッチ」が主力。これまで約5千種類を設計してきたが、近年は低価格化の波にさらされている。ジェイエムティーが得意とする操作パネルユニットを産業装置業界に広げることで、付加価値の高い製品を生み出す計画だ。柳沢社長は「ジェイエムティーの高い設計開発力を生かしたい」とした。

長野テクトロングループの連結売上高は、25年1月期に50億円に達する見込み。各事業の成長とM&A（企業の合併・買収）の推進で、29年1月期に200億円を目指す。